

1 研修目的

第 63 回全国高等学校軟式野球選手権大会 開催式、試合スケジュール等の運営を見学し、本年度 10 月に予定されている第 22 回秋季全国高等学校軟式野球長野県大会の円滑な運営、今後大会でのプレイヤーファーストの理念に基づく大会運営に役立てる。また、高校野球での教育活動の見直しと選手自ら考え、判断し、表現できる環境を整えるとともに、それを取巻く多くの方々の研修・研究を深めるための組織改革を進める。

2 研修内容

8/23 (木) 移動日

8/24 (金) 開会式 (明石トーカン球場)、第 1 試合目【上田西 (北信越代表) 対 筑陽学園 (北部九州代表)】

8/25 (土) 中日

8/26 (日) 第 2 試合目【上田西 (北信越代表) 対 広島新庄 (西中国代表)】

※台風 20 号の上陸により大会日程が前日に変更

開会式 8 月 24 日 (金) 9 : 00 → 8 月 24 日 (金) 11 : 00

第 1 試合目 【上田西 (北信越代表) 対 筑陽学園 (北部九州代表)】 12 : 00 → 14 : 00

3 研修結果

① 開会式

前日 (8/23) 姫路市に上陸した台風 20 号影響を考え、開会式が事前に変更されたが、交通渋滞により出場校の 2 校が遅れ、11 時開催予定が 12 時からの開催となった。10 時半頃には準備が開会式の準備は整っていたが、10 時 55 分ごろに出場校遅れの放送、開会式開始時間の指示はされなかった。11 時 30 分ごろ開会式の開始時間を 12 時 00 分にする旨の放送が入った。12 時 00 分に開会式が始まり、およそ 30 分の式であった。

当日は、雨は降っていなかったが、風が強く観客席に砂埃が飛んでくる様子が見られた。また、球場の外の木がなぎ倒されて、重機により撤去作業が行われていた。駐車場も折れた枝や雑草等を撤去した様子であった。倒れた木の影響か、球場付近まで送迎できずにバスや荷物などの搬送も混乱していた。

開会式には、多くの観客 (各校の保護者等) が来観し、全国 16 地区の代表である 16 校が 2 列で入場した。校名プラカードを兵庫県内高等学校 女子生徒が持ち、両腕を前に高く上げ、「1・2」と声をかけながら行進していた。電光掲示板には、高校名を表示していた。

② 試合前

試合前に行われるシートノックは後攻から 7 分間行う。BSO にてカウントダウンを行い、残り 1 分にアナウンスが入った。内野ノック、外野ノックは各校の自由で行い、外野ノックは自チームのベンチ前 (ファールグラウンド) からセンター方向に向けノックを行っていた。シートノック終了後、相手チームの残り 1 分アナウンスでのベンチ前でのキャッチボールは行っていなかった。

両チーム、シートノック終了後、対戦校の紹介があり、校歌、先発メンバーの紹介があった。両校は自

チームの紹介中に円陣を組む。

グラウンドでは、整備車が2台、補助員高校生が8名程度で整備を行い、整備車→水撒き→バッタボックスラインの順番で約15分から20分程度で行っていた。

③ 試合中

合開始時間は、予定時刻より早く開始をした。攻守交替時には、審判より **Hurry up** の略語である「ハリー」と声をかけられ、キャッチャーはバッターボックス横で装備をつけるように指示をされていた。30度を超える中で給水タイムもなく行った。

④ 試合後

両チームが握手し、相手を讃える場面があった。

⑤ 次試合への移行

アップはトレーニングシューズにて行い、シートノック前にスパイクに履き替え準備を行っていた。ラインはすべて消し、整備していた。

4 所感

① 開会式

【時間変更について】

11時の段階で、出場校が遅れていることを把握できたはずである。選手、観客を優先に考えた際に変更時刻を早い段階で示すべきであったと考える。また、今回見ることができなかったが、選手の控え室や選手への指示等がどうなされていたか、気になるところである。

【球場周りの環境について】

台風の影響なのか、球場入り口付近が混雑していた。選手受付が正面入口にあり、そこではパンフレットや球場グッズ販売店などより混雑する要素が多くあった。また、役員の方が出場選手を正面入口に番号順で並ばせている様子もあり、来賓の方も正面入口より入るので考慮が必要であると感じる。喫煙所も正面入口前に設置されており、開会式終了後には出場チームや保護者、喫煙者が多く集まってしまっていた。そのことから、選手受付を別途設けるとともに、喫煙場所の排除や球場から離れた場所への設置を考える。

【開会式内容について】

入場は2列で入場し、16校であっても少し長く感じた。開会式終了後に試合を控える選手にとっては炎天下の中、30分程度ではあるがかなり疲労は溜まると考える。また、会場を移動する学校もあり、移動をユニホームで移動する実態があり、試合も1時間遅れになったとはいえ、食事の時間の確保や移動を考えると誰のための大会なのかと疑問を抱かずにはいられない。開会式の簡略化を考えるとともに、日程確保が難しい軟式野球にとってタイトなスケジュール体制になるのは仕方ないが、順延日も確保してあるので早めの判断が運営サイドで必要であり、選手が安全で安心した環境を考える必要がある。

② 試合前

非常にスムーズにシートノック、グラウンド整備が行われ、選手への配慮があり、時間に余裕を持って運営されているように感じた。しかし、開始時間より前に試合開始するなど、選手、チームスタッフ、観客への配慮が足りない部分が見られ、特に1試合目は、時間厳守で始めるべきであると考えます。

③ 試合中

攻守交代時、審判より選手たちに急ぐように声が多くかかり、残塁していた選手たちは水も取らずに守備位置へ着いたり、守備をしていた選手が、そのままバッターボックスへ立ったりと長い時間水分補給できない環境がある。28度以上超えた場合は、各回毎に給水タイムを取るか、1塁、3塁付近には水の配置をするなど工夫が必要だと考える。

④ 試合後

終了のセレモニーにて、審判、相手チームへ挨拶する場面を一人ひとりが握手でき、両チームが本部、両チームの観客への挨拶があっても良いと考えます。

⑤ 次試合の移行

ベンチの退却は非常に素早く素晴らしいと感じた。また、観客の方々の撤去も早く、次チームへの配慮が感じられた。また、運営側としても観客席への配慮がもっと必要ではないかと感じ、放送や案内係を付け、安全で迅速な交代が必要である。

5 まとめ

本研修では、様々な場面で今までとは異なった環境、目線から大会を観させていただきました。今後の長野県軟式野球のより良い大会運営の参考にさせていただきたい。特に、選手・審判・監督・観客の4つからなるスポーツであることからそれぞれへの配慮が必要であると考えた。特に、選手目線での大会運営を行なっていく必要がある。開会式の簡略化や試合中の選手の水分補給など変化が必要であると考えた。開会式は、県大会までは入場を行わず、初日の移動や負担を減らしていきたい。また、攻守の交代時での水分補給を補助するようなベンチワーク指導も行なっていきたい。次に、様々なスポーツに関わる中で試合終了時のセレモニーは、審判への一人ひとりの握手（又はハイタッチ）、相手選手との握手、相手ベンチ前での挨拶、本部前での挨拶が行われている。試合が無事終わり、試合が出来たことに感謝をするためにも必要であると考えます。また、どんなスポーツもそのスポーツを行うことで上達し、様々な場面に対応出来る能力が養えると考えます。そのことから1年間通したリーグ戦形式の公式戦を行い、日々の練習の成果を発揮できる環境を増やしてあげることが大切であると考えています。以上のことから、少しでも変化をしていけるように尽力していきたい。

また、第63回全国高等学校軟式野球選手権北信越大会では代表者会議を行い、規則の統一を測ったが、各県での試合前の規則が違ふことで選手はもちろんスタッフ陣も多く混乱する原因になっている。大会毎必ず代表者会議を開催し、当日の日程や規約の確認などを行うべきである。基準を全国大会に合わせる必要があると感じた。今年度長野県高野連の大会は大町球場、松本球場と行いましたが、観客への配慮がなかったと思います。全国大会でも、観客席への案内や動線での配慮が無かったように思いました。案内係や保護者への対応が必要であり、役員入り口や、選手入り口など付近の保護者などの誘導や場所の設定などが大切だと思います。

今回、本研修に参加でき、関係各位の方へ感謝申し上げます。この経験を活かし、野球だけではなく高校での部活動をより良いものにしていきたいと思っております。